

1. 調査報告概要表

作成日平成 21年 6月21日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)
法人名	ケアサプライシステムズ(株)
事業所名	グループホームどんぐり
所在地	群馬県伊勢崎市蕪塚町1193-9 電話 0270-50-7855

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7
訪問調査日	平成 21年 5月 28日

【情報提供票より】(21年5月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.8 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	-----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	0名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 87歳	最低	79歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大井戸診療所 連取歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は職員一人ひとりの特性を把握し、職員が自己の能力を充分活かせるよう配慮しながら、職員との連携を図り、信頼関係を構築させている。利用者の生活歴や家族からの情報を基に、ホームをこれまでの生活の延長の場としてとらえて、利用者が自然な形でその人らしい生活が出来るよう日々の対応に取り組んでいる。外部からの意見を真摯に受け止め、即改善に取り組む等、ホームのサービスの向上に取り組んでいる姿勢が伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の改善課題であった「栄養摂取や水分確保の支援」については、全員で検討し、改善に取り組んだ。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で話し合い作成したものである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に開催しており、事業所から利用者の状況や行事の報告等をしている。参加者からの意見や要望を聴きサービスの向上に活かしている。火災時の対応や施錠の件についての意見交換が行われ、ホームとしても検討課題として取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書に苦情申し立ての窓口を明記してある。家族の来訪時には気軽に話が出来ると雰囲気作りを工夫している。特に3ヶ月に1回の家族との面談日を大切に、意見交換をしながら要望や意向等が言いやすくなるよう配慮している。終末期の対応等についての質問があり、ホームとしての方針を説明した。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、回覧板等で情報を知り、地域の行事(夏祭り、敬老会、ゴミ回収等)に参加したり、公園等の散歩時に気軽に話しかける等、近隣の人との交流を大切にしている。又、AEDの講習時には地域の人に声をかけ一緒に学習している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、地域との関連性を意識した事業所独自の理念『地域と共存して、認知症の高齢者が笑顔で自由に生活出来るよう支援していきます』を掲げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りやホーム会議、日々の利用者との関わり等で理念を振り返り、確認しながら実践に取り組んでいる。		
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板等で情報を知り、地域の行事(夏祭り、敬老会、ゴミ回収等)に参加したり、公園などの散歩時に気軽に話しかける等、近隣の人との付き合いを大切にしている。AEDの講習時には地域の人に声をかけて交流を持つようになっている。		
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全員で話し合い作成したものである。前回の外部評価の改善内容については全員で検討し、改善に取り組んだ。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催しており、事業所から利用者の状況や行事の報告等を行っている。参加者からの意見や要望を聞きサービスの向上に活かしている。災害時の対応や施錠の件についての意見交換が行われ、ホームとしても検討課題として取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の課長が報告や申請手続き等の代行のため市の担当者を訪ね、相談や助言を受けている。課長と管理者は常に話し合っており、情報を共有しサービスの質の向上に反映させている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に4回の「どんぐりだより」の発行や利用料入金に毎月来訪する家族に利用者の健康状態や行事の様子を報告している。3ヶ月に1回、家族等と面談して意見や要望を聴いたり、利用者個々の状況等をお知らせする場を設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情申し立ての窓口を明記している。家族の来訪時には気軽に話が出来る雰囲気作りを工夫している。特に3ヶ月1回の家族との面談日を大切に、意見交換をしながら家族の意向等を引き出すようにしている。終末期の対応についての質問等がありホームとしての方針を説明した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限に抑えるために、福利厚生等に配慮したり、管理者は職員との話し合いの機会を定期的に持ち、働きやすい環境を作っている。新入職員に対しては管理者と一緒に勤務について、日勤は1週間から半月、夜勤の場合は3～4日指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修として月に1回、職員が交代で各自が課題を見つけて発表する機会を作っている。レベルアップ、認知症、口腔ケアの研修等の外部研修には段階的に参加するようにし、研修内容については報告し全員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、グループホーム大会に参加、事例発表等を行って、他のグループホームとの情報交換、交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入居するのではなく、本人・家族等に事業所を見学してもらい、利用者と一緒に飲み会話をしたりする等、雰囲気を体感してもらっている。入居後は家族からの情報により入居者にあつた対応を心掛けている。帰宅願望のある場合など、それを抑えるのではなく一緒に外へ出て気分転換を図る等工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、利用者の得意とする話題に触れ、草花のこと・競馬のこと・昔の行事等について教えてもらう場面を作っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や何気なく見せる表情等から、利用者の気持ちを把握し、それらの情報はカンファレンスで話し合い、全職員が共有している。意思疎通の困難な方については家族からの情報等により意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からの要望を基に、職員全員での意見交換や毎月のモニタリングにより、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には月に1回のモニタリングと3ヶ月に1回の見直しをしている。状態に変化が見られた場合は職員間で話し合い、家族に説明しながら現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、申請書類手続きの代行、買物の同行、通院支援等の対応を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に事業所の協力医の説明をしている。本人・家族の希望するかかりつけ医となっており、協力医がかかりつけ医の利用者は2週間に1回の訪問診療を受けている。医師、訪問看護師等との連携も図られており、緊急時には適切な指示が受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての「重度化や終末期ケアの対応指針」を定め、文章化してあり、入居時に説明している。又、状態の変化があるごとに家族・医師・事業所などの関係者で話し合いながら、家族の意向に沿った支援に繋いでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応等について申し送り等で話し合っ実践に反映させている。面会票の記入方法についても配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや体調に配慮しながら、その日をどのように過ごしたいか、時には幾つかの選択肢を示しながら、利用者の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルの低下により、調理の準備などは出来なくなったが、利用者はテーブル拭きや下膳等をしている。利用者の好みを聴きながら献立をたて、利用者と職員は同じテーブルで、介助をしながら同じものを一緒に食べている。時には出前をとって食事が楽しいものになるような工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスと併用しているため、時間帯を希望に合わせてるのは難しく、基本的には週に2回、午後の入浴支援をしている。入浴を拒む人には言葉かけやタイミングを見て等の工夫をして入浴・シャワー浴で対応している。	○	事業所や職員の都合で決めるのではなく、利用者の意向に沿った入浴の支援をするのが好ましい。デイサービスでは毎日入浴していることを考え、デイサービス関係者と話し合い、出来るだけ利用者の希望に沿った対応が出来るよう検討して欲しい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・花の水やり・テーブル拭き・洗濯物干し、たたみ等一人ひとりの力を発揮してもらえる場面を作っている。又、散歩・ドライブ・花見・地域行事への参加など楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調・希望に合わせて、散歩・ドライブ・近くの公園での外気浴・買い物など出来るだけ戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の様子を把握しながら、施錠することを常態化せず職員が目が届く時間帯(午後の1~2時間位)は鍵を掛けていない。職員会議や推進会議等でも折に触れ検討している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回利用者と一緒に避難訓練・消火訓練を行っている。地域の方には推進会議で協力依頼をしたり、AED講習の時にも呼びかけ、一緒に講習を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて食べやすいように配慮をしている。栄養のバランスを考えながら利用者の希望も取り入れた献立を作り、食事・水分の摂取量についても記録して、全職員が情報を共有、健康管理に活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテーブル・椅子・絵画・書・観葉植物・季節の花・置物などを配し、生活感や季節感を取り入れて居心地良く過ごせる環境が工夫されている。昼のコーナーがあり、テレビを見たり、休んだりしてゆっくりと過ごせる場所も用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真・絵画・籐製品の収納箱、造花・ソファ等馴染みの物を持ち込んだり、本人の作った作品を飾るなどして居心地良く過ごせるような工夫をしている。		